

令和5年度和歌山県学習到達度調査(中学校)4月調査結果概要

1 調査の概要

(1) 調査日 令和5年4月18日(火)

(2) 調査の目的

県内の中学校における生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における生徒への学習指導の改善・充実に役立てる。

(3) 調査内容

調査を実施した学校、生徒、教科

公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、
特別支援学校中学部第1・2学年

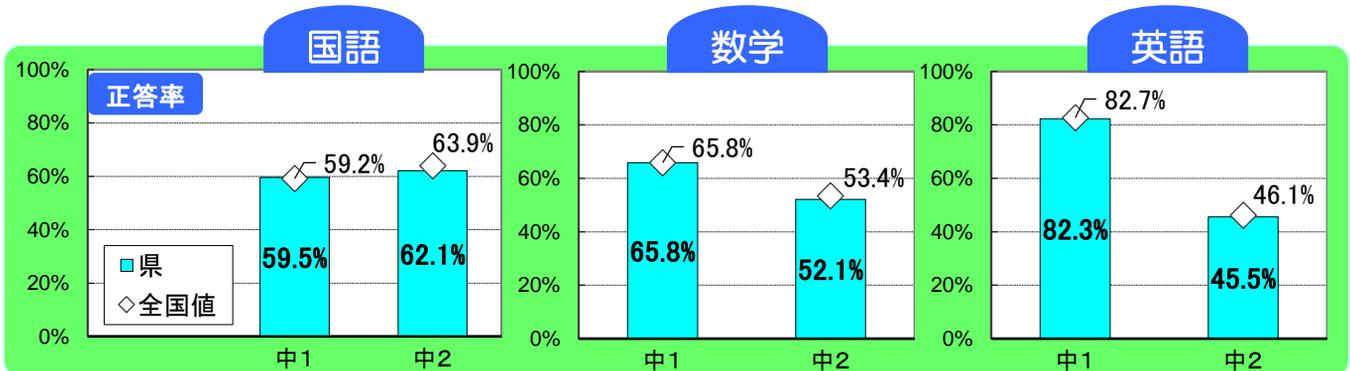
学年	学校数	生徒数	実施教科
中学校第1学年	118校	6,426人	国語 数学 英語
中学校第2学年	117校	6,317人	

※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語・数学・英語の調査を実施したため、4月調査を実施していません。

2 結果の概要

【平均正答率】

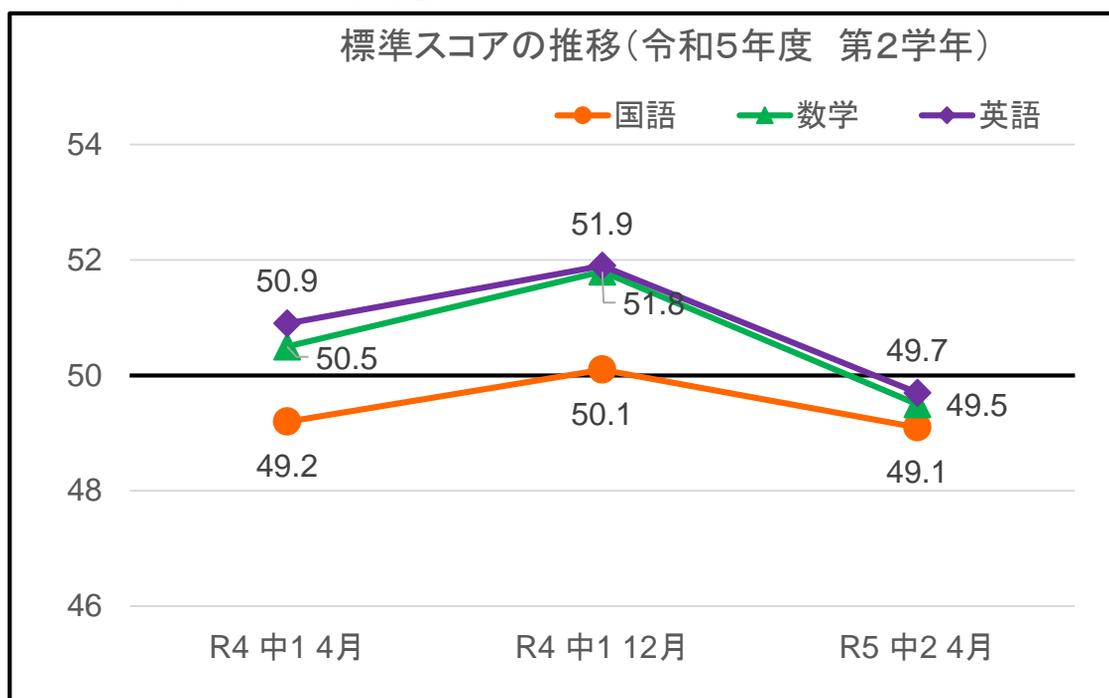
	国語			数学			英語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
県	59.5	62.1		65.8	52.1		82.3	45.5	
全国	59.2	63.9		65.8	53.4		82.7	46.1	
差	+0.3	-1.8		±0.0	-1.3		-0.4	-0.6	



【標準スコア】 全国の平均正答率を50としたときの換算値

	国 語			数 学			英 語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
R4 4月	49.2	49.2		50.5	50.6		50.9	49.8	50.0
R4 12月	50.1	48.4	49.0	51.8	50.2	50.4	51.9	50.0	51.4
R5 4月	50.2	49.1		50.0	49.5		49.7	49.7	

【同一集団における標準スコアの推移】



3 各教科の成果と課題(国語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ②	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	60.4	51.2	+9.2

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(2)	文章全体の構成を捉えている。	66.9	65.5	+1.4

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
1(3)	意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている。	15.8	19.8	-4.0

インタビューを聞きながら、やり取りをメモした上で【インタビューメモ】を参照し、最後の中川さんの話に関連する内容を特定していく。メモの活用がポイントになる。インタビューを行うときには、次の点が大事である。①相手について調べて、そこから聞きたいことを質問として準備しておくこと。②インタビューでのやり取りの中で、相手の話した内容から更に興味や疑問をもったことについて、臨機応変に対応していくこと。ここでは②について意識して考えていくとよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	読み取った内容を明確にして書いている。	48.6	52.0	-3.4
	自分の考えを明確にして書いている。	28.5	30.7	-2.2

第一段落に、資料から読み取ったことを書くこと、第二段落に、AとBのどちらの意見に賛成か、自分の立場と、その理由を書くことが求められる。本問のような資料読み取り型の問題は、資料から読み取った内容を言語化すること、またその読み取った内容に対する自分の考えを、理由を明確にした上で筋道立てて述べる必要がある。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	59.2	57.0	+2.2

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(2)	単語について理解している。	72.6	70.9	+1.7

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(2)	表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	50.4	55.0	-4.6

表現の効果について考えるとき、表現そのものに注目するだけではなく、作品の流れの中での登場人物の言動について押さえていく必要がある。本問の文章は、「駆」と「宙見」の会話を中心に進んでいく。会話によって揺れ動く「駆」の心の中の言葉について押さえることを通して、表現の効果について考えさせたい。授業の中で表現の効果について取り上げる際には、特徴的な表現を対象とすることが多い。その場合であっても、表現が作品全体と関わっているということを踏まえた発問を工夫していくとよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	読み取った内容を明確にして書いている。	48.9	54.2	-5.3
	自分の考えを明確にして書いている。	49.3	53.4	-4.1

第一段落には、AとBのポスターの特徴をそれぞれ書くこと、第二段落には、第一段落で書いたことを踏まえて、AとBのどちらのポスターを掲示するとよいと思うか、あなたの考えと、その理由を書くことが求められる。取り上げるポスターの特徴が、自分の考えの理由になり得るかどうかを検討することが必要であるため、そのような活動を授業で取り入れていくとよい。

第3学年 ※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語の調査を実施したため、未実施

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

3 各教科の成果と課題(数学)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(3)	異分母分数の減法(約分なし)の計算ができる。	83.0	78.6	+4.4

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
17(1)	比の式について理解している。	92.8	91.3	+1.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4	分数の除法の文章問題を表した図を読み取ることができる。	63.1	71.9	-8.8

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
21(2)	2つの帯グラフを正しく読み取り、比較している。	11.5	17.5	-6.0

花だん1m²当たりの肥料の重さを求める問題だが、除数と被除数を取り違えた誤答があった。誤答の原因としては、問題文の意味を理解せず、問題文に出てきた順番でわってしまったことなどが考えられる。分数の除法においては、数直線に表して考察しようとする態度や、「2Lの重さが4kg」というように分数を簡単な数に置き換えて考えようとする態度を育むことが大切である。

誤答の主な原因としては、帯グラフを正しく読み取ることができないことが考えられる。分かりやすくするために、帯グラフで示された割合を数字で表示させるとよい。ただし、A中学校とB中学校では、生徒数に差があるため、帯グラフの割合をそのまま生徒の人数として比較することは正しくないことに注意させる。その上で、選択肢の内容が帯グラフから正しいと判断できるのかを考えさせたい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(4)	一次式の減法ができる。	56.1	48.8	+7.3

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1)	数量を文字式で表すことができる。	72.4	69.0	+3.4

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8	反比例の関係での、 x 、 y の値の変化の関係について理解している。	50.7	56.7	-6.0

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
18(1)	ヒストグラムから階級の幅を読み取ることができる。	37.0	53.8	-16.8

誤答の主な原因としては、反比例の關係に習熟していないこと、 x と y の關係を式に表すことができないことなどが考えられる。反比例とは、 x の値が2倍、3倍、4倍になると、それに伴って y の値が1/2倍、1/3倍、1/4倍になることであること、 $y=a/x$ (a は比例定数)の式で表されることを確認させる必要がある。さらに、 x と y の表をつくり、比例や反比例の關係を視覚的に確かめさせることも有効である。

誤答の原因としては、階級の意味を理解していないこと、階級の幅について理解していないことなどが考えられる。階級とは、資料を整理するための区間であり、階級の幅とは、その区間の幅である。階級、階級の幅等の意味については、度数分布表やヒストグラムを用いてデータを整理・分析する活動を通して、理解を深めることが有効である。

第3学年 ※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて数学の調査を実施したため、未実施

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

3 各教科の成果と課題(英語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(3)	音声を聞き、活字体の小文字3文字を正しく書いている(box)	82.2	75.1	+7.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
11(1)	音声で十分に慣れ親しんだ、英語で書かれた語句の意味を理解している。(身の回りのもの)	77.3	72.4	+4.9

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(4)	日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測している。(行きたい場所としたいこと)	67.7	73.0	-5.3

会話文を聞き取る際には、誰と誰が何を話しているのかを把握する必要がある。リスニングの前に、問題文やイラストから会話の状況を把握しておくことよ。また、会話文はテンポよく発話者が変わるため、全ての英文を聞き取ろうとすると、分からない単語が出てきた場合に混乱してしまう。必要となる単語を聞き取るように、日頃から意識させたい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
12(2)	基本的な文の語順を理解している。(can eat)	61.9	72.3	-10.4

英語の語順は、日本語と違うことに留意して指導するとよい。また、小学校高学年において、語順を意識しながら音声で慣れ親しんだ表現を、中学校の言語活動においても繰り返し活用するとよい。生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたりして表現できる段階まで確実に定着させたい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(1)	対話の内容を聞き取り、適切に応答している。(何をしたかとたずねられて)	57.5	54.2	+3.3

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
11(1)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書いている。	31.8	27.6	+4.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。	7.1	10.0	-2.9

「聞くこと」と「書くこと」の領域を統合した問題である。本問では、ジムが何を尋ねているのか、最後の文を確実に聞き取る必要がある。授業初めのSmall Talkなどで、疑問詞で始まる疑問文を扱うなどして、その定着を図るとよい。また、教科書の題材に意見などがある場合、それに対して自分の考えを書かせる活動を日頃から行うことにより、英語を書く力を身に付けさせるとよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(3) ①	対話を読み、対話の流れとチラシから、必要な情報を把握して適切な語を選んでいる。	67.7	71.1	-3.4

本問では、サトルと講師が同じ前田姓であるという情報を読み取ることで、解答を導き出すことができる。まとまりのある文章から必要な情報を読み取る力を習得させるには、授業において、相手に情報を伝える手段である広告やパンフレット、メール文等から、自分が必要とする情報を読み取る活動を行うことが効果的である。

第3学年 ※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて英語の調査を実施したため、未実施

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—	—	—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—	—	—	—	—

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—	—	—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—	—	—	—	—